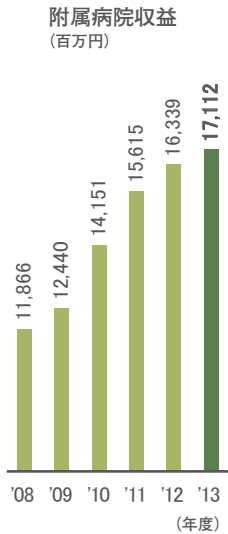


治療とは、体外から炭素イオン線を照射して、がん細胞の遺伝子を破壊する放射線がん治療で、従来のX線・ガンマ線と比較して患者の身体的な負担が少なく極めて短期間で社会復帰が可能です。

山形大学は、北海道・東北地区で初めての導入を目指しているところですが、平成24年度に引き続き、平成25年度補正予算にて、その研究開発費として更に約10億円が盛り込まれ、実現へ向けた動きが大きく加速しました。今回の予算で行うプロジェクトは、現在、大量の電力を必要とする重粒子線がん治療装置について、電力消費をより低く抑えるための技術を民間企業と共同で研究・開発するというものであり、東北全域における患者さんの利便性を考慮した広域的な患者ネットワークシステムの構築もあわせて取り組みます。

今後、高齢化がますます進み、がんに罹患する患者が更に増えることが予想されます。国民病であるがんの治療のため、医学部の知を集結し、がん研究及び診療に取り組んでまいります。



大学運営の充実に向けた施設整備

山形大学では、大学を利用する学生、教職員のために、教育研究機能の充実や、耐震化などによる安全、安心な環境づくりのため、さまざまな施設の整備を行っています。

平成25年度は、施設整備費補助金による医学部総合研究棟（臨床系）、附属特別支援学校の再整備が完了したほか、教職員の就労と子育ての両立を支援する目的で目的積立金により小白川キャンパスに保育所を整備し、平成26年4月1日に開所しました。

そのほか、外部資金により工学部に蓄電デバイス開発研究センターが整備され、産学連携の研究拠点となることが期待されています。

工学部 蓄電デバイス開発研究センター 外観



小白川キャンパスのびのび保育所

